

# Message

第 16 号

2015. 3. 1

＝メッセージ＝

島根県立島根中央高等学校  
島根中央高等学校PTA広報委員会

## 「経験」を積み重ねましょう。

島根中央高等学校PTA会長

和田 隆行



今年もまた「卒業」という言葉が、聞こえてくる季節となりまして。

卒業生の皆さんおめでとうございませう。

どうでしたか？

三年間の高校生活は…？

やりたい事を…

やるべき事を…

勉強・スポーツ・部活動…等

たくさんさんの思い出が出来た事

でしょう。

今、皆さんは、これから歩む自

分の人生に期待と不安でいつぱ

いかも知れませぬ。進学する

人・就職する人・それぞれ歩む

道は違えど、大人への階段を一

歩一歩確実に進んで行つてほし

いと願つております。

皆さんは、島根中央高校の卒業生としての誇りを胸に、色々な分野において、地域で活躍できる大人に成長してほしいと思います。そして様々な経験・体験を重ね自らの自信へとつなげて行つて下さい。

私たちは、様々な経験を積み重ねる事によって、スキルを身に付け、自信が持てるようになります。

日々の学びを大切に、真面目に経験を積み重ねて行くことで、きつと、本当の自信に繋げる事が出来るでしょう。

素直な気持ちを忘れずに夢と希望をもって、経験を積み重ねて行きましょう。

時には、迷つたり落ち込んだり泣きたくなつたりする出来事に遭遇する事もあるかも知れませんが…決して解決出来ない問題はありません。そんな時は、全力でぶつかつて行つて下さい。その解決への努力が、貴重な体験となり自信へと繋がります。

皆さんのこれからの活躍を心より願つております。

勇気をもって、前進し続けましょう。

最後に、保護者の皆さま、お子様のご卒業おめでとうございませう。

いよいよ社会人としての入り口に立ったお子様の成長を、頼もしく、又たくましく感じておられる事と思ひます。

これからの成長を大いに楽しみにして頂きたいと思ひます。

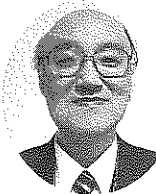
皆様と共に様々な場面でPTA活動をご一緒させて頂いた事、多大なるご協力を頂きました事本当に感謝申し上げます。

ありがとうございます。

## 「青い鳥」のゆぐえ

島根中央高等学校 校長

福岡 俊行



三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。高校生活の思い出は何にも

代えがたい貴重なものです。この思い出を胸に新生活に旅立ち、元気に過ごしてもらいたいと願つて

います。

さて、表題のメーテルリンク作「青い鳥」の童話は有名です。貧しい境遇のチルチルとミチルが魔法使いに頼まれ青い鳥を探し旅に出ます。冒険と失敗をくり返

し、結局自分たちの家に帰つてきます。ところが、家で飼つていたハトが青い鳥に変身していき、「青い鳥を探して旅を続けてきたけれども、青い鳥は自分たちのそばにいたんだ。」と喜ぶという童話です。

そしてこの話は、「隣の芝生は青い」といふように、人は遠くのほうに夢のような希望があるように思いがちだけれども、本当の幸せや希望というものは実は身近にあるものなのだと言語で示しているのです。

しかし、最近「青い鳥」はもともとと童話でなく劇として書かれたもので、原作のラストは違うのだと知りました。家のハトが青い鳥に変身し幸福になるところまでは同じですが、原作の劇では、その後、青い鳥はどこかに飛んでい

てしまい、劇の最後にチルチルが「だれかあの青い鳥を見つけた人は、僕に返してください。僕たちが幸福に生きていくにはいつかあの青い鳥が必要になるでしょうから」と観客席に語り終るので、メーテルリンクは意外な結末を用意していたのです。長い旅の末に青い鳥を得た兄妹から、なぜ青い鳥を奪うのでしょうか。

この結末について、現代作家の五木寛之氏は著者の中で、

「人間は希望がなくては生きていけない。しかし、希望の青い鳥は飛んでいつてしまった。じゃ、どうするか。それは、人間は自分の手で青い鳥を作らなきゃいけない。ひとりひとりが自分の「青い鳥」を自分でつくる。それしか道はないんだ」ということを、メーテルリンクは言いたかつたんじゃないかと思ふんですね。」と述べています。

なるほどな、と思ひます。童話はめでたしめでたし、で分かりやすいですが、現実の人生はそう甘くない、原作の劇のように人は青い鳥を探し続けるのだ、といったところでしょうか。

皆さんが、これから自分の「青い鳥」をつくり、幸せになつてもらふことを切に願ひ、応援いたします。

### 卒業への思い

卒業生および  
保護者のみなさんより

#### 三年組

反省と挑戦。  
自分の夢に向かって、躍進して  
ください。

卒業おめでとう。  
小さな頃からの夢に向かって羽  
ばたけ!!

卒業おめでとう。  
自分の夢に向かって、これから  
も頑張つて!!

吹奏楽の見事な復活、誇りに思  
います。次の目標にもチャレン  
ジ!!

(夏末 母)

卒業おめでとう。  
部活頑張ったね。あなたの未来  
に花束を。

卒業おめでとう。  
あなたの夢が叶うように応援し  
ています。

卒業おめでとう。  
島根を離れても地元の友達を忘  
れないでね。

卒業おめでとう。  
いつも笑顔で頑張つて。

(日高 夏海)

卒業おめでとう。  
これからは夢に向かって頑張つ  
て。

卒業おめでとう。  
あなたらしい一步を踏み出して  
下さい。

卒業おめでとう。  
あなたの夢がかなうよう頑張つ  
て下さい。



3年1組 担任  
原田 正 先生



3年1組 副担任  
舟津 亮二 先生

### 先生から贈る言葉

三年一組 担任

原田 正 先生

「意志あるところには道は開ける」  
"Where there's a will, there's a  
way"

「メンチはチャンス」 "In the  
middle of difficulty, lies  
opportunity" 若いだから何で  
も勇猛果敢に挑戦してください!  
卒業おめでとう。

三年一組 副担任

舟津亮二先生

卒業おめでとう。幅広い教養  
を身につけた、魅力のある人へ  
と成長し、立派に社会に貢献し  
てくれることを期待しています。



〈三年一組〉

### 三年一組

卒業おめでとう。  
夢に向かって頑張ろう。ずっと  
応援してるよ。

(宇山 廣太)

祝 自分の目標にむかって大き  
く飛躍していこう。応援してま  
す。

卒業おめでとう!!  
社会人への一步の始まり。応援  
しています。

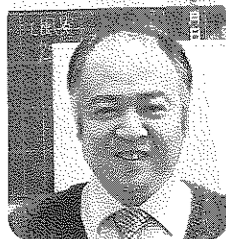
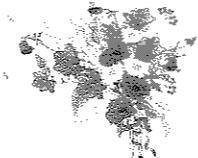
(杉谷 涼)

卒業おめでとう。  
これからはやさしい気持ちを忘  
れずに。

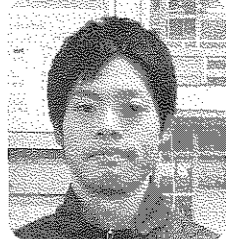
(和田 麻里)

卒業おめでとう。  
目標を持って突き進んでいつて  
下さい。

夢に向かって新たな一步!次こ  
そは、君の夢、叶えちゃんさい  
!!



3年2組 担任  
吉田 幸久 先生



3年2組 副担任  
石内 良太 先生

### 先生から贈る言葉

三年二組 担任

吉田 幸久 先生

卒業おめでとう。三年間の経  
験を通して高校三年生らしくな  
ったと思います。しかしまだ先  
は長い。更なる成長を期待して  
います。

三年二組 副担任

石内 良太 先生

卒業おめでとう。高校卒業と  
同時に、「無理」や「だるい」など  
と言った言葉からも卒業しよう  
!!今後の活躍を期待しています。

### 先生から贈る言葉

三年三組 担任

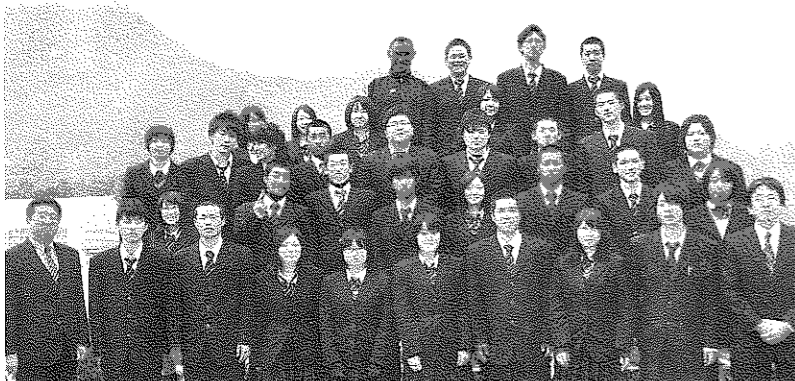
大田 清司 先生

卒業おめでとう  
二年間沢山の感動と思い出を  
くれてありがとうございます。  
社会に出て自分の力でしっかり  
歩んでください。

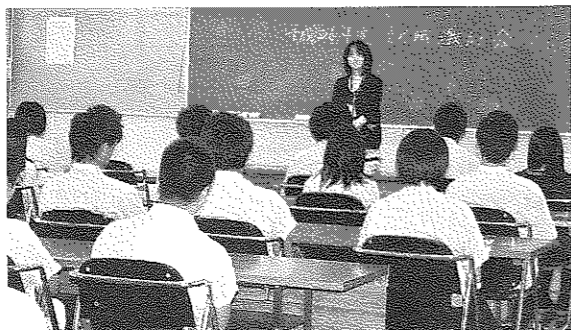
三年三組 副担任

山本 至夫 先生

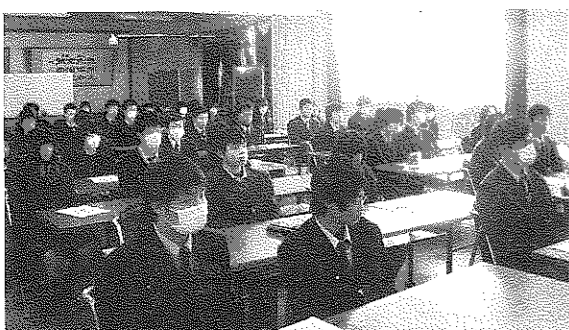
卒業生のみなさん、ご卒業おめ



〈三年三組〉



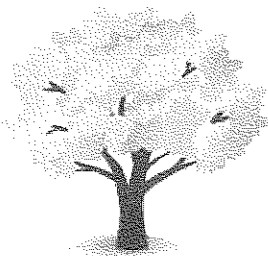
就職激励会(H26年 9月11日)



センター試験激励会(平成27年1月16日)



〈三年二組〉



### 三年三組

(泉 幸輔)

野球お疲れでした。  
ホームラン三振エラーの長い人  
生、頑張れ!

卒業おめでとう  
新しい夢に向かって、がんばつ  
て下さい。

三年間、お疲れ様  
あなたの人生、元気に思いつき  
り楽しんでネ

(佐藤 彩)

卒業おめでとう  
自分らしくこれからも頑張つて  
下さい。

卒業おめでとう。  
社会人になっても頑張つて下さ  
い。

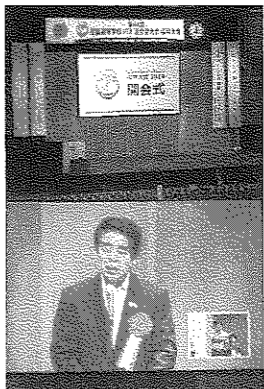
感謝の気持ちを忘れずに……。こ  
れからもあなたを応援していま  
す。

あっという間に三年間が過ぎま

# 全国高等学校PTA連合大会 福井大会に参加して

和田 隆行

第64回全国高等学校PTA連合大会が、今年度は、福井県を会場に開催されました。「教育と考福」をメインテーマとして、平成26年8月21日〜23日にかけて、約一万人を迎えての開催となりました。



本校からは、立石教頭と私が参加させて頂きました。

今回は、島根県高等学校PTA連合の皆さんと一緒に大型バス二台で福井県へ向かいましたがこれが結構ハードな移動でした。久々に、バスに乗りつくした感がありました。福井大会の概要を簡単に言いますと、文部科学大臣下村博文氏の祝辞から始まり、脳科学者茂木健一郎氏の基調講演。そして、アトラクション披露等の開会式典があり、その後各分科

会に分かれての研修会となりました。今大会の趣旨を要約すると、次のような内容になります。

「私達を取り巻く環境の激しい変化が続いている今日、大人だけでなく子供達にとっても生きる指針や方向性が見いだしづらい時代となっている。これから何をすべきなのか、どこへ向かうと良いのかなど、子供たちは漠然とした不安を抱えているばかりか成長を見守る側の私達も、「これからの未来」に確信が持てなくなっているのが現状。いつの時代も、子供達の健やかな成長と幸福を願う親の思いは皆同じ。

福井大会は、「教育と考福」をテーマに掲げ子供の幸せについて考える。「家庭・学校・地域・社会」がそれぞれの役割を見つめ直し共に学び連携して、PTA活動の更なる深化を目指す大会とする全ては子供達の幸福の為に。」という大会趣旨でしたが、歴史

と文化そして伝統工芸や食文化がしっかりと根付いている学び豊かな福井県の特徴を網羅した素晴らしい大会であったように感じました。昨年の山口大会・そして今回の福井大会への参加という機会を与えて頂きました事に對して、PTA会員の皆さまへ改めて感謝申し上げます。

# 夏祭りのパトロールに参加して

生活指導委員会委員長

左田野 晃



でもあの花火の音が心に響き続けてくれることを祈ります。

今年も夏祭りに合わせ、パトロール活動を行いました。この活動は、子どもたちの見守りを目的に夏祭りに合わせ毎年行われており、祭りを楽しみたい気持ちを抑えつつ、先生や多くの保護者の方々が参加してくださいます。これまででは、川本の「ええなあまつりかわもと」の会場だけで行っていました。今年、初めて試みで、後援会を通じて島根中央高校を支援して下さっている、美郷町で行われた「美郷町花火大会」の会場でも行いました。今年、二

つのお祭りが同じ日になつてしまい、美郷町の会場での見守りは少人数でしたが、子どもたちを温かく見守ろうと言う気持ちを届けることは出来たのではないかと思います。どちらの花火もそれぞれに特色があり、都市部の花火大会のように大きな花火ではありませんが、間近で花火を見ることができ、音を感じることに出来る素晴らしいものです。地域のみなさんはもちろん、島根中央高校で高校生活を送る子どもたちにとっても大事な思い出となり、いつま



# 「学園祭バザー」と「餅つき」に参加して

PTA副会長

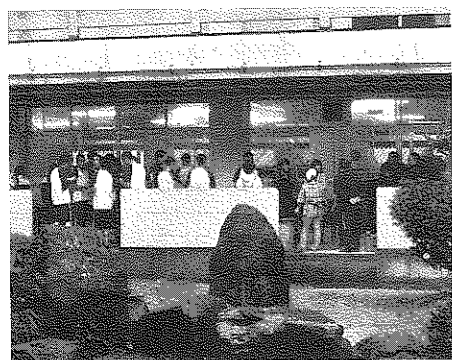
吉川千佐子

去年に引き続き、二回目の参加でした。去年は初めての参加で、経験者の方に教えていただき無事終了でしたが、今回は反対に私は経験者の立場で教える側...とはいえ昨日のことさえも忘れることの方が多い為、覚えているはずもなく、うろ覚え状態ながらもなんとかバザーにこぎつけました。

また、去年の反省もふまえて、食券販売もスムーズに流すことができました。こんな風に行事、イベントは次の世代へと受け継がれてゆくのだと納得！

次に球技大会の餅つき、これも去年に引き続きの参加でした。今年もOGの岡田さんに指導していただきました。

岡田さん手作りの草餅用よもぎ、桜の花びらの塩漬けそれを練りこんでのお祝いの餅、これは三年生へ特別だったみたいですね。ほんのり塩味のきいた、とても上品なお餅に仕上がっていました。



つきたて餅 大人気

生徒たちもバザー、餅つきにも楽しみにしているようで餅つきは、ついしてみたい生徒が何人か来て、上手に出来ました。保護者の皆さん行事、イベントには私には関係ないと思っておられる方がいたら、それは違います。参加すると、得るものがたくさんあります。笑顔もいっぱいあります。ぜひたくさんの方に参加していただき中央高校を盛り上げていきましょう。



焼そばいかがですか

販売前のひととき

# 研修会に参加して

研修委員会委員長

桜本 博志

本年度の研修委員会は、昨年度同様、スクールカウンセラーの永崎節子先生を講師に二回の研修会を開催しました。研修会

は「思春期のこどもをもつ親の座談会」と題して行われ、参加者の皆さんが、それぞれに抱える子どもに対する悩みや思いなどについて話すことで、問題を共有し、永崎先生のアドバイスを受けながら、気付けられることや、意見交換もすることができました。一回目は七月七日に開催し、子どもとの日ごろの接し方や心配していることなどについて、互いに話し合いました。十月六日に開催された二回目の研修会では、自分の似顔絵を描いて、その似顔絵の周囲に他の参加者が、その人の素敵な点や良いところを書き込むことをしました。日頃、人の良いところを意識して見るということはなかなかしないものですが、子どもや他人の良いところを見つけて褒めることで、自分に対しても見つめ直すことができると思えました。

研修会の参加者は少なかつたですが、子どもとの関わり方を改めて考えるとよい機会となりました。

# 平成26年度 学園祭PTAバザー及び球技大会応援餅つき 経費実績報告

PTA会員の皆様のご協力により平成26年度の事業を無事実施することができました。ありがとうございました。左記のとおり報告します。

活動項目	科目	金額	備考
学園祭 PTAバザー	収入 売上金	121,000	冷やしうどん・ヤキソバ・フランクフルト おにぎり・ジュース
	支出 経費	90,705	食材・ガス代・備品借料等
球技大会 応援餅つき	支出 経費	9,492	食材・ガス代・備品借料等
	差し引き 収益	20,803	生徒会会計へ繰り入れ(助成)する。
生徒会への助成金			学園祭収益金から2万円を助成する。
			島根中央高校PTA学園祭実行委員会預金残高 (平成27年1月7日現在) <b>200,513円</b>

PTA活動の中心事業として、年々好評を得ており、参加されるPTA会員の皆様も増加しております。生徒たちも、大いに楽しみにしており積極的に協力してくれており喜ばしい限りです。今回、このイベントの収益金より、二万円を生徒会会計への活動助成金として繰り入れさせて頂きました。



# 人権講演会を終えて

人権教育研究部

山本 至夫

昨年十二月十五日、悠呂ふるさと会館で、「心に熱と光を求めて」と題して「人権講演会」を開催いたしました。講師は、福岡県久留米市在住の、中山洋一さん、中山賢一郎さん親子です。父洋一さんが一九九六年に結成した、人権バンド「やじろべえ」を経て、二〇一一年から親子デュオ「フラットワールド」として、新たな活動を展開していらつしやいます。講演会では、小学校時代は活発な野球少年だったが、その頃から差別や偏見による厳しい体験を何度となく経験し、劣等感にうちひしがれた青年期は、「自分とは何か、人間とは、差別とは何か」と、その「何か」を求めてさまよい歩いた日々を六曲の歌とともに、思いをこめて語っていた。聞き

ました。生徒の感想には「生きる勇氣をいただきました。ポジティブに生きていこうと思いました。」「差別を許さない人間に変わりたいたいと思いました。」「差別をなくすのに一番大切なのは、人の心の優しさなんだと思いました。」と記されていきました。

代わりに、今年度から、PTAの研修委員会と協同で人権講演会を開催することになりました。おかげをもちまして、一般の方にも来ていただくことができました。講演会のあとも直接講師の先生とお話をされていました。今後は、この活動をとおして生徒の人権意識の高揚と、あらゆる人権問題の解決に向けて、その意欲と実践力の育成をめざし、保護者の皆様と共により一層人権・同和教育推進活動を進めて参りたいと思います。



トーク&コンサートの様子



講演後、生徒代表、校長先生と

## 進学ゼミ東京研修

八月十八日〜二十日の二泊三日の日程で一・二年生の進学ゼミ事業希望者十名が東京に出かけました。志を高く持ち、目標に向かっているという意識を強化することを目的に、東京にある中核的施設や大学を訪問したり、企業経営者の話を聞いたりしま

した。

### 〈生徒感想〉

「川本高校卒業生との交流会や「難関大学生の講話」を聞いた「東京大学工学部」の見学をして

①中途半端ではなく何事も本気で取り組み、最大限の出来る事をする。

②苦手な教科を最優先する。

③明確な目標を持ち、まずは、目の事を達成して大きな事につなげる。など今までは、そんなに考え

てなかつた事に視点を置いて考えられるようになりま

した。



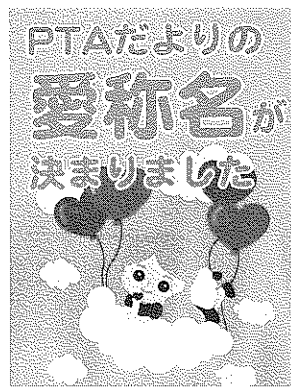
川本高校卒業生との交流会



国会議事堂



東京証券取引所



PTAだよりの愛称名が決められました

数年にわたり本誌の愛称を募集したところ、多数の応募があり、

厳正な選考の結果、満場一致で「Message」となりました。

投稿者の理由は「親・先生から生徒へ、生徒から先生・親へのメッセージが届くように」となっていました。

ご応募下さったのは保護者の方で「永野 牧さん」でした。愛称ですが、理由がとも良かったのでここに報告させていただきます。

ご応募下さった方全員に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

編集後記

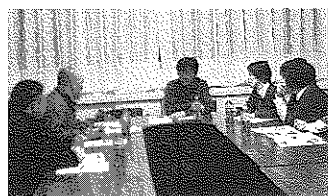
三年生は卒業し、就職又は進学され四月から新しいスタートとなり気持ち新たに出発となります。二年生は本校最上級生として後輩の手本となり、引っ張っていくこととなります。

四月からは新たな気持ちです

スタートして、その気持ちを一年を通じて持続させ、次のステージへとステップアップしていつて欲しいと願っています。先生方は生徒の為に、授業のことや学校生活のことを「今日よりは明日、明日よりは明後日」と、常に向上心を持ち取り組んでおられます。

私達保護者は、生徒たちがステップアップして行くのを見守っていくのと同時に、親として人間としてステップアップしなくてはと痛感しました。最後になりましたが、今回投稿を依頼しましたところ、快くご協力下さいました本誌が完成しましたこと、厚くお礼申し上げます。愛称のごとく「生徒・親・先生」お互いのメッセージが届くようなPTAだよりになればと思いい、今後も色々工夫をしていきたいと思っております。

(広報委員会)



広報委員